

各関係機関長 様

佐賀県農業技術防除センター所長

イチゴのハダニ類の防除対策の徹底について

イチゴのハダニ類（写真1）の発生が急増しています。春期はハダニ類がさらに増殖しやすく、防除が困難となるため、冬期のこの時期の防除が極めて重要です。

つきましては、葉裏にいるハダニ類に確実に薬液がかかるよう、古い下葉の除去および株全体への丁寧な散布の徹底について、生産者への指導をお願いします。



写真1 ナミハダニ

記

1. 発生状況

- 12月12日～15日に実施した定期調査におけるハダニ類の発生株率は、27.5%（平年14.6%、前年19.1%）であり、平年よりやや高く、前回（11月14日～21日）の調査時に比べ急増している（図1）。
- 発生程度は圃場間で大きく異なり、多発生した圃場も認められた（表1、写真2）。

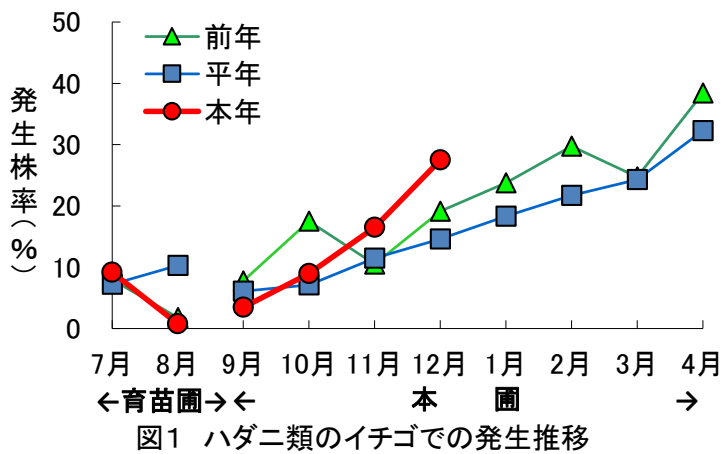


写真2 ハダニが多発生し、クモの巣様の糸で覆われた株

表1 イチゴ定期調査圃場におけるハダニ類の発生状況

調査地点	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	O	P
(参考) 11月	16	8	32	24	24	0	4	0	20	8	0	0	4	4	80	40
12月 (%)	36	4	100	84	84	0	32	0	36	32	0	0	4	8	20	0

注) 令和4年11月14日～21日及び12月12～15日に県内各地のイチゴ圃場を調査(農業技術防除センター:10圃場、防除員:6圃場調査)

2. 防除対策

- 1) ハダニ類は小さく（体長：0.5mm程度）、肉眼では発生に気付きにくい。葉裏をルーペ等を用いてよく観察し、早期発見に努める。特に、ハダニ類の吸汁により葉に白いカスリ状の斑点が生じている場合（写真3）、既に発生が増加していることもあるため、早急に葉裏の観察を行う。
- 2) 薬剤のかけムラをなくし防除効果をより高めるため、散布前に古葉を除去する。また、薬液が葉裏にかかるよう丸型噴口等を用い、十分量を株全体に丁寧に散布する。
- 3) 薬剤の選定にあたっては、表2を参考にする。ただし、その効果は圃場によって異なるので、薬剤散布した後は、必ず効果を確認する。
- 4) 薬剤抵抗性の発達を防ぐため、同一系統の薬剤連用を避け、異なる系統の薬剤によるローテーション散布を行う。
- 5) 天敵を利用する際は、有効薬剤によりハダニ類の密度を0頭レベルに抑えた後に、放飼する。なお、天敵を放飼した圃場であっても、ハダニ類の増加を認めた場合は、天敵への影響が少ない薬剤を用いて防除を行う。
- 6) 薬剤の天敵への影響は、日本生物防除協議会ホームページ（<http://www.biocontrol.jp/Tenteki.html>）を参照する。ミツバチへの影響は、「佐賀県病害虫防除のてびき」を参照する。

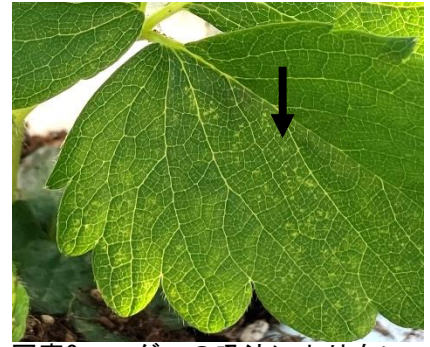


写真3：ハダニの吸汁により白いカスリ状の斑点が生じた葉

表2 県内のイチゴから採取したナミハダニに対する殺虫効果¹⁾（農業試験研究センター）

供試薬剤	系統 (IRAC)	供試濃度	2018～2019年採取			2020年採取			2021年採取		(参考) 天敵への 影響 ⁴⁾ (チカブリダニ)
			県内11圃場の 補正死虫率(%) ²⁾			供試個体群の 補正死虫率(%)			供試個体群の 補正死虫率 (%)		
			平均(最低～最高)			A圃場	B圃場	C圃場	D圃場	E圃場	
アグリメック	6	1500倍 ³⁾	検定未実施			100	100	100	100	100	×影響あり
アフーム乳剤	6	2000倍	84	(22～100)		73	100	100	66	78	×影響あり
コロマイト水和剤	6	2000倍	検定未実施			検定未実施			6	0	×影響あり
マイトコーネフロアブル	20D	1000倍	76	(9～100)		20	69	59	98	100	○影響少ない
ダブルフェースフロアブル	21A+25B	2000倍	検定未実施			17	68	39	検定未実施		×影響あり
ダニサラバフロアブル	25A	1000倍	16	(0～61)		検定未実施			検定未実施		○影響少ない
スターマイトフロアブル	25A	2000倍	82	(53～100)		12	38	43	87	9	○影響少ない
ダニコングフロアブル	25B	3000倍	74	(0～100)		1	23	29	100	15	○影響少ない
グレーシア乳剤	30	6000倍 ³⁾	100	(100～100)		98	100	100	100	100	×影響あり
ダニオーテフロアブル	33	6000倍 ³⁾	検定未実施			100	100	94	100	100	○影響少ない

1) 各年次ごとに県内圃場から採取し、インゲン初生葉を用いた卵浸漬法により処理7日後に生死判定し、殺卵および殺幼虫活性を評価。（一部、薬剤により未検定の個体群あり）

2) 補正死虫率＝(水処理区の生存率－薬剤処理区の生存率)／水処理区の生存率×100

3) アグリメック、グレーシア乳剤およびダニオーテフロアブルについては、常用濃度の1/3濃度で実施した。

4) メーカー資料等を参考に作成。グレーシア乳剤については、カブリダニ類への長期影響(100日以上)があるため、注意する。

連絡先：佐賀県農業技術防除センター 病害虫防除部

〒840-2205 佐賀市川副町南里 1088

TEL (0952) 45 - 8153 FAX (0952) 45 - 5085

Mail nougyougi_jutsu@pref.saga.lg.jp

ホームページアドレス https://www.pref.saga.lg.jp/ki_ji00321899/index.html

防除のてびき掲載アドレス https://www.pref.saga.lg.jp/ki_ji00321928/index.html

防除セQRコード*



てびきQRコード*

